

# KAWASAKI Coastal Area News

川崎臨海部

Vol. 22



 川崎市  
KAWASAKI CITY

臨海部国際戦略本部  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1  
TEL 044-200-3634 FAX 044-200-3540  
<http://www.king-skyfront.jp/>

— 川崎の南端は世界の最先端 —

令和元(2019)年9月発行

## 川崎臨海部の未来 — 今後の臨海部のあり方を探る —

川崎臨海部は約2,300の事業所と  
約59,000人ももの従業者を抱える  
川崎市の産業の中でも  
非常に重要な地域のひとつです。

上空から見た川崎臨海部



## 臨海部で働く若手社員

# 「令和」の担い手が

# 想い描く

# 臨海部の未来予想図

優れた製品や技術で日本経済をけん引し続けている川崎臨海部。このエリアを代表する企業で働く、令和時代の担い手三人が、福田市長と意見を交わしました。



対岸の東京国際空港をバックに、左から、小林直人(JFEスチール株式会社)・福田紀彦(川崎市長)・椎葉由衣(富士電機株式会社)・山盛朋哉(ペプチドリーム株式会社) \*敬称略

### Profile

小林直人(こばやしなひと)	JFEスチール株式会社 東日本製鉄所京浜地区制御部熱延制御室。2009年入社。製鉄所内の電気設備・制御システムの保全・建設・研究開発に従事。
椎葉由衣(しいばゆい)	富士電機株式会社 発電プラント事業本部エンジニアリング統括部電気制御システム部システム技術課。2015年入社。配電盤の電気設計に従事。現在、富士電機労働組合川崎支部執行委員就任中。
山盛朋哉(やまもりともや)	ペプチドリーム株式会社 経営管理部財務・経理グループ。2018年入社。経理業務や固定資産・設備管理業務に従事。

**市長:**昨年3月、川崎臨海部の30年後を見据えた「臨海部ビジョン」を策定しました。同ビジョンには、企業の皆さんの立場や考え方を反映させられたことに非常に大きな意味があり、それを一人ひとりが日々の仕事の中で共有できれば、30年後の臨海部もこれまで同様、世界をけん引するエリアであり続けると思います。令和という新たな時代を迎え、大きな社会変革への対応が求められる中、皆さんにはぜひ川崎臨海部で新しい価値を作り続けていただきたいと願っています。

### ◆ 臨海部で働くようになった経緯

**小林:**就職活動の際、先輩からの紹介で弊社の工場見学に参加し、それまで見たこともない圧倒的なスケールの大きい工場設備に出会い、ぜひ働きたいと入社。弊社では国内4地区に工場施設がある中、希望どおり京浜

地区の工場へ配属されました。

入社して10年になりますが、現在は製鉄所内の巨大な電気設備・制御システムの保全・建設・研究開発に従事しており、特に圧延設備、品質測定装置、クレーンなどの安定稼働のための予防保全計画を立案・実行しています。

**山盛:**産学連携による創業研究開発を行うバイオベンチャー企業、ペプチドリームに中途入社しました。財務・経理グループで、日々の経理業務や月次決算、年次決算、開示資料作成業務やその他、固定資産や設備管理の業務に従事しています。弊社が殿町国際戦略拠点キングスカイフロントに本社兼研究所を建設したことにより、臨海部で働くことになりました。

**椎葉:**私も工場見学がきっかけで、発電所をつくる仕事に携わりたいと思い、会社の規模や職種が希望と一致したことや先輩方の温かい人柄にも引かれ弊社に就職。現在は火力・地熱発電所向けのタービンや発電機を制御する配電盤の電気設計を行っています。

熊本から上京し、今年で入社5年目になりましたが、入社当時、技術者として1人前になるには10年かかる



と先輩に言われました。その言葉のとおり、まだまだ勉強が足りないと感じる日々です。

### ◆臨海部の印象

**椎葉:**大規模な工場が多く集まっているため、会社の枠を越えて切磋琢磨できる環境だと思います。上京以前、川崎臨海部には、公害などの環境汚染、3K、治安が良くない地域という印象がありましたが、実際に働いてみると工場内では日々パトロールが実施され、整理整頓された職場環境です。きれいな工場夜景も以前のイメージと大きく違いました。

上京時には、川崎駅の交通アクセスの便利さや商業施設の充実さにとても驚きましたが、そこから少し離れると、すぐにもつづりの現場となることも、川崎の発展につながっているのではないかと感じます。

**小林:**鋼管通りの工場で働いていた祖父が空が暗かったこともあったと話していた記憶もあり、日本の高度経済成長を支える京浜工業地帯であったため、大気・水質汚染等の公害があったことは認識していますが、現在は環境対策設備や監視体制構築により改善され、駅前や臨海部近郊の再開発も進行中で、よりクリーンで住みやすいイメージです。

鉄鋼・造船・化学などの重化学工業が集中しており、日本の産業の中核を担っているという実感がありますが、高度経済成長期に稼働した設備が多く、老朽化が著しいのも事実。知識と経験を有する団塊世代の方々も短期間に大勢引退され、技能伝承も課題の一つです。その一方、工場内で万が一トラブルが発生した際でも、応援していただく企業が臨海部内にあり、迅速に対処いただけることがとても助かります。

**山盛:**もともと、臨海部には「工業団地で自然がない」というイメージを強く抱いていましたが、実際にはそのようなことはなく、多摩川に近いということもあって、空気もきれいで羽田空港を眺める景色もよく、とても働きやすい環境だと感じています。私が働くオフィス

いわゆる工業地帯のイメージは払拭され、よりクリーンで住みやすい川崎——小林



皆さんには川崎臨海部で新しい価値を作り続けていきたいと思います——市長



からは、潮干狩りシーズンに多摩川で潮干狩りを楽しんでいるファミリーや、双眼鏡を片手に野鳥を見に来るバードウォッチャーの方も多く、自然豊かな環境を感じることができます。

### ◆臨海部ならではの？

**小林:**私にとっての臨海部は、「非日常を感じるスケールの大きい製造現場や特殊車両」「首都高速から見える製鉄所等の巨大設備」「深夜でも消えることのない美しい工場夜景」「一般の方が使用しない鶴見線・浜川崎線・路線バスや海底トンネル」です。

実は今回初めてキングスカイフロントに足を踏み入れました。同じ臨海部とはいえ、普段我々がいる環境・雰囲気とまったく違う新鮮さを感じます。臨海部の企業同士の交流が活発化して、こうした新鮮さを体感できる機会が増えればいいと思います。

**市長:**臨海部内にも企業ネットワークはいくつかあり、相互に意見交換や企業見学会を実施するなど、積極的に活動していますが、そうした動きがもっと広がり、各企業で深まっていくといいと思います。

臨海部には素材系企業だけでも相当数が集まっており、その研究者・専門職の方々が繋がっていくことを期待しています。ペプチドリームさんが創り出す薬品は臨海部内の多数の素材の一つとして、いろいろな素材同士が繋がって新しいものを作り出すポテンシャルがあり、一般市民目線で見ても楽しみが増していくように強く感じています。

**小林:**薬を開発するときは、どのような技術を使っていますか？

**山盛:**私は研究職ではありませんが、弊社には独自のPDPSという創薬開発プラットフォームシステムがあり、それぞれのターゲットに対する化合物の探索等を効率よく行い、より短期間・低コストで医薬品の開発を可能としています。

**小林:**私も担当外ではありますが、「鉄」にしても添加す



る化合物の配列からなるため、そのような最新技術は、研究等で参考になるかもしれません。相互に意見交換する交流の場があると非常に有意義だと思います。

**椎葉:** 私には、臨海部は「付き合いの深い会社が多く職人的な人々が繋がりがやすい地域」だと感じられます。今はまだ会社同士の横のつながりは希薄かもしれませんが、今後、自社の開発ヒントになるような、企業の枠を外した研究開発担当者同士の意見交換会が生まれるような土壌が、臨海部にはきっとあると思います。

**市長:** 臨海部に限らず、川崎は実にウェットなまちです。そこには「来る人は拒まず、去った人とも以前同様に付き合う」メンタリティーがあり、川崎の発展はまさにそうした土壌に支えられてきたと思います。最近の良い例としては、まったくの異業種企業同士が水素や蒸気エネルギーといったインフラをパイプラインで繋いで、お互いに相互融通していたりします。それが川崎なんです。

### ◆訪れてほしい臨海部周辺のスポット

**山盛:** キングスカイフロント周辺で言えば、対岸の羽田空港から飛行機が飛び立つ景色はとても眺めがいいです。多摩川沿いに東急REIホテルのカフェなどがありますので、そこから羽田空港などを眺めてまったりするのもおすすめです。

**椎葉:** 工場夜景クルージングは、やはり一度は行っていただきたいです。私も3月に行きましたが、海から見る夜景は格別で、こんなにも多くの工場があり、かつ幻想的な景色であることに驚きました。ガイドの方の解説も詳しくとても勉強になります。

**小林:** 臨海部そのものではありませんが、科学の歴史や最新設備を楽しく子どもと一緒に学べる「東芝未来科学館」もおススメですね。

### ◆30年後の川崎臨海部への期待と抱負

**小林:** 臨海部が持続的に発展するには、「技術・技能者が創造的な仕事に集中できる、『住みやすい・働きやすい・



臨海部を通じて、川崎市民の交わりの活性化を図る——椎葉

先端産業と重化学工業が相互に触発しながら更なる発展を——山盛



交流しやすい環境』作りが不可欠だと思っています。重化学工業の最新技術を採用した大規模革新とそれに伴う会社間の協同化や雇用の拡大を図ることで、鉄鋼製品による社会の充実化に貢献していきたいと思っています。

**椎葉:** 日々の生活面で考えると、臨海部で働く方々は川崎駅周りの商業施設までしか足を延ばさず、臨海部以外の方々には、工場地帯の臨海部を訪れる機会がなかなかありません。例えば臨海部に緑が増えると、工場地帯のイメージだけでなく、もっと親しみが持て、老若男女を問わず川崎市民全体の交わりが活性化すると思います。そんな環境の中で技術者として力をつけ、人とのつながりを大事に努めていきたいと考えています。

**山盛:** 臨海部ビジョンでは、新たな産業拠点としてライフサイエンス分野やAI・IoT分野に取り組んでいくと示されています。そうした新たな産業と従来の臨海部の強みである重化学工業が相互に触発していきながら発展していく環境になってほしいと願っています。その実現のためには積極的な企業誘致や支援、人材交流などから各種インフラの利便性の向上により、川崎市に「住みたい」「働きたい」と思えるような環境整備やまちづくりが必要でしょう。

**市長:** 今から30年後にどのような産業が必要とされ、生き残るのか？ それは、常に社会が求めるニーズに即して変化し続ける企業だと思います。研究開発者も熟練の技能者もいる川崎臨海部の企業はそうした無限のサイクルを実現する力を有しており、だからこそ30年後、50年後も世界の最先端として位置づけられるものと確信しています。

産業のあるところに人は集まってきます。今後、臨海部の企業が新たな価値を創造し続ける限り、若い人たちもそこに集まり続けることでしょう。そうした価値を令和の担い手である皆さんと共有しながら、川崎市も進化していきたいと思っています。